

# 景況調査

報告書 NO. 72

平成28年 7月～9月 実績  
平成28年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

## 平成28年度第2四半期(H28. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成28年9月12日～23日

2. 調査対象  
 (1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 107[99企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	52 (3)	7 (2)	14 (1)	13	12 (1)	8	106 (7)

※ ( )は団体

5. 概況  
**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比で△13.2、前期実績(4～6月△6.8)に比較すると6.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前年同期比では△15.1、前期実績(4～6月△6.8と比較すると8.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△3.7ポイント、前期実績(4～6月△15.4)と比較すると11.7ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△11.3、前期実績(4～6月・△15.4)と比較すると4.1ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H28.7～9)見通し**については△10.4、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △13.2)と比較すると2.8ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち食料品は売上の悪化を訴える企業が多かった。織物は、多重織りガーゼ素材は受注が順調で稼働率が高かった。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは、売上全体では前年同期をやや上回る動き。鉄工のうち工作機械関係は国内生産の受注動向は、前年同月比で微減から横バイの動き。自動車関係はmトヨタ国内日当たり生産がややペースを落とし1万2千台水準で推移した。化学は中国向け出荷が低迷で苦戦。プラスチックは出荷数量は伸びるも、販売単価の下落で前年並み。

「**建設業**」は、売上の低迷を訴える声のみられた。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、＜インテリア＞閑散期で例年並み。＜寝装関連＞9月も暑さが続き、秋冬物の動きが鈍い。夏物では冷感商品は昨年並みに良く動いた。＜アパレル＞生地では天候不順で伸び悩み。ファストファッションの低価格ゾーンも苦戦。

「**小売業**」は、消費意欲の低迷が長引いており、活気にかける状況。石油等その他小売は、原油価格は大きな動きは少なく安定傾向。今後しばらく僅かに供給超過の状態が続く見込み。

「**サービス業**」のうち旅館関係は宿泊者数はインバウンド微増も国内減少で前年並みとなった

「**運輸通信業**」貨物輸送では完成車輸出が堅調。旅客関係では、動きが鈍い時期ながら例年並み。乗務員不足が業界的な課題。

**設備投資状況**は、40事業所(55件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は38事業所(55件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少 利幅の縮小、人手不足、競争激化、合理化の不足が項目別で上位を占めていた。

**当地区において** 業種別では、サービス業・運輸通信業では堅調であったが、製造業・建設業・卸売業・小売業で厳しい状況。全体的には一進一退の状況。しかしながら、個人消費の伸び悩みによる停滞感が長引く状況で、創立70周年を迎える当所としては、新アクションプランの策定や「ビジナビ」等を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

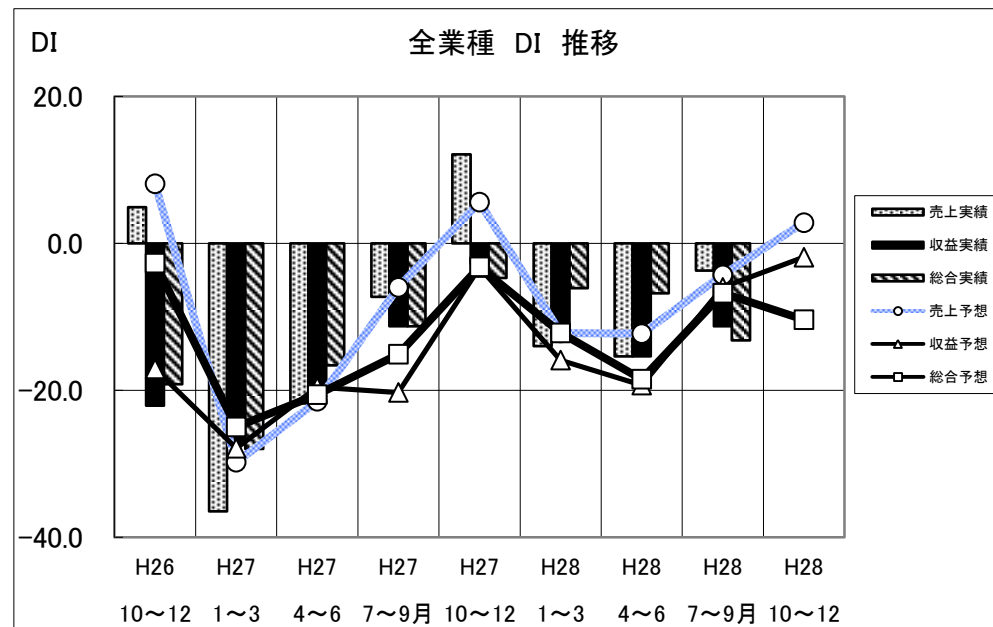
＜全業種 各項目期別推移＞

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-14.2	-3.7	2.8	H27. 7～9月実績	-14.5	-7.3	-18.6	-11.3	-12.9	-11.3	-3.2
②製品・商品在庫	-10.4	-7.5	-8.5	H27. 10～12月実績	-14.1	12.1	-14.9	-2.8	-13.1	-4.7	-12.2
③資金繰り	-1.9	-4.8	-2.9	H28. 1～3月実績	-12.2	-14.0	-7.0	-11.4	-12.2	-6.1	-18.5
④採算(収益)	-15.1	-11.3	-1.9	H28. 4～6月実績	-14.6	-15.4	-17.9	-15.4	-6.8	-6.8	-6.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.9	-6.6	4.7	H28. 7～9月実績	-14.2	-3.7	-15.1	-11.3	-15.1	-13.2	-10.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-15.1	-13.2	-10.4								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H27.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	4.9	-36.5	-21.8	-7.3	12.1	-14.0	-15.4	-3.7	2.8
収益	-22.1	-27.1	-20.3	-11.3	-2.8	-11.4	-15.4	-11.3	-1.9
総合	-19.2	-28.0	-16.6	-11.3	-4.7	-6.1	-6.8	-13.2	-10.4

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は1.9、前期実績4～6月期(△12.7)に比して14.6ポイントの上昇、収益DI値は△11.5、前期実績4～6月期(△10.9)に比して0.6ポイントの下降、総合判断DI値は△11.5、前期実績4～6月期(3.7)に比して15.2ポイントの下降と、売上は上昇するも収益・総合では下降傾向が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上は上昇。収益は横バイ。総合は下降の見通しとなった。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-13.5	1.9	15.4
②製品・商品在庫	-5.7	-1.9	-1.9
③資金繰り	0.0	-3.8	-9.6
④採算(収益)	-21.1	-11.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.5	-5.8	15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.6	-11.5	-9.6

### [食料品]

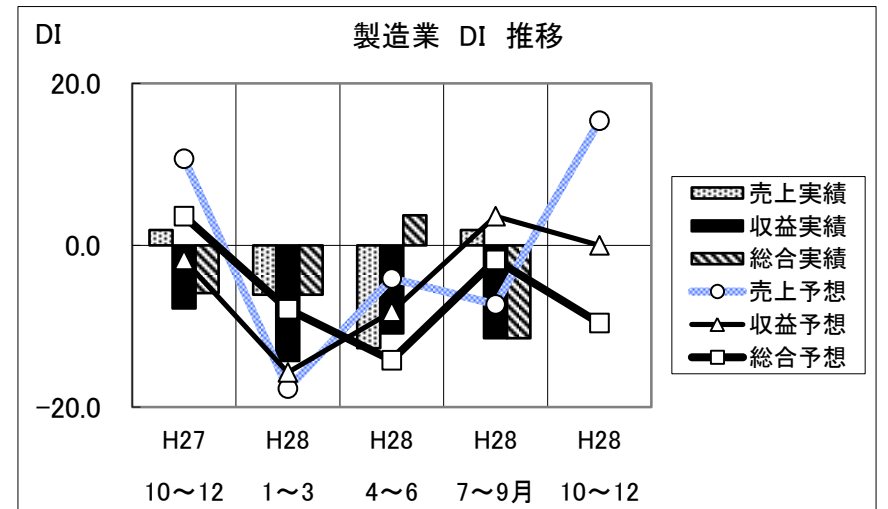
売上は前期比DI値は△50.0%と下降、前年同期比でもDI値△33.3%と悪化した。収益では、前期比DI値で△66.7%と悪化、前年同期比では0.0%と横バイ。総合判断では前期比DI値は△50.0%と業況は悪化している。

向こう3ヶ月の見通し 年末の需要期に入ることもあり、売上はDI値83.3%、収益DI値66.7%と好転の見通し。総合判断DI値は16.7%と改善の見通し。依然として原材料コストの負担感が高いなど厳しい経営環境下にあつて、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題である。愛知県産小麦や三河湾産アサリなど地産食材を活用した商品展開により販路開拓に取り組む企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

### (食料品)

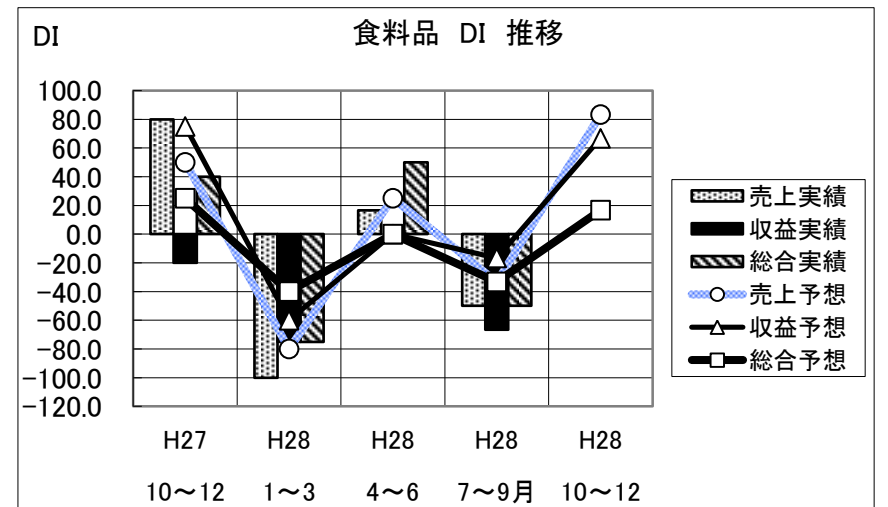
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	-50.0	83.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	0.0
③資金繰り	16.6	16.6	0.0
④採算(収益)	0.0	-66.7	66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-50.0	16.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	1.9	-6.1	-12.7	1.9	15.4
収益	-7.8	-14.3	-10.9	-11.5	0.0
総合	-5.9	-6.1	3.7	-11.5	-9.6



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	80.0	-100.0	16.6	-50.0	83.3
収益	-20.0	-75.0	0.0	-66.7	66.7
総合	40.0	-75.0	50.0	-50.0	16.7

## 【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼが堅調で安定して受注。一方でインテリア向のジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

### 向こう3カ月の見通し

寝装関係について、多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	0.0	100.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	0.0	0.0

## 【漁網・ロープ】

売上全体では前年同期をやや上回る動き。分野別の売上では漁業資材は前年並み。造船・船舶は15%程度増加に対し、産業資材はやや10%程度減少。また、首都圏を中心に建築関係に動きあり。

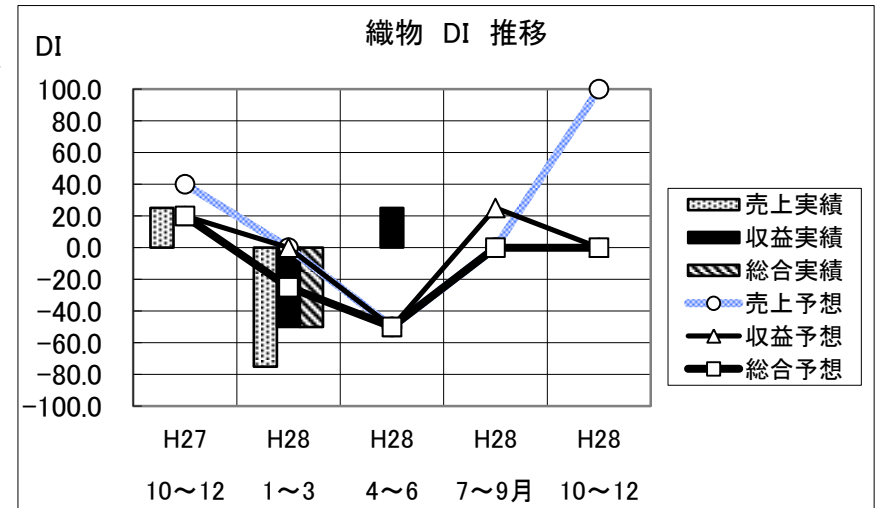
### 向こう3カ月の見通し

北海道地域の台風による影響が残り、需要はやや増加。しばらく継続する見通しである。また、建築・土木関係の動きにも期待したい。

### (漁網・ロープ)

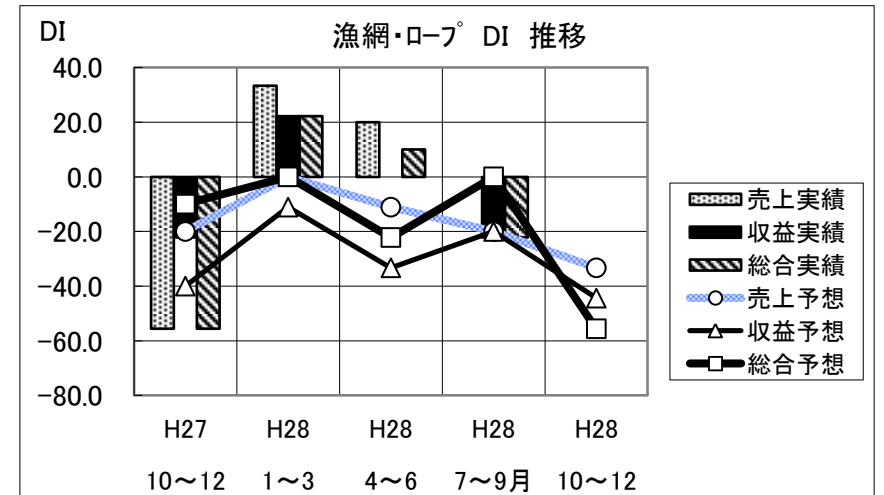
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	11.1	0.0	-33.3
②製品・商品在庫	-22.2	-11.1	-33.3
③資金繰り	-11.1	-11.1	-33.3
④採算(収益)	-33.3	-22.2	-44.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-11.1	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.4	-22.2	-55.6



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	25.0	-75.0	0.0	0.0	100.0
収益	0.0	-50.0	25.0	0.0	0.0
総合	0.0	-50.0	0.0	0.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-55.6	33.3	20.0	0.0	-33.3
収益	-22.2	22.2	0.0	-22.2	-44.4
総合	-55.6	22.2	10.0	-22.2	-55.6

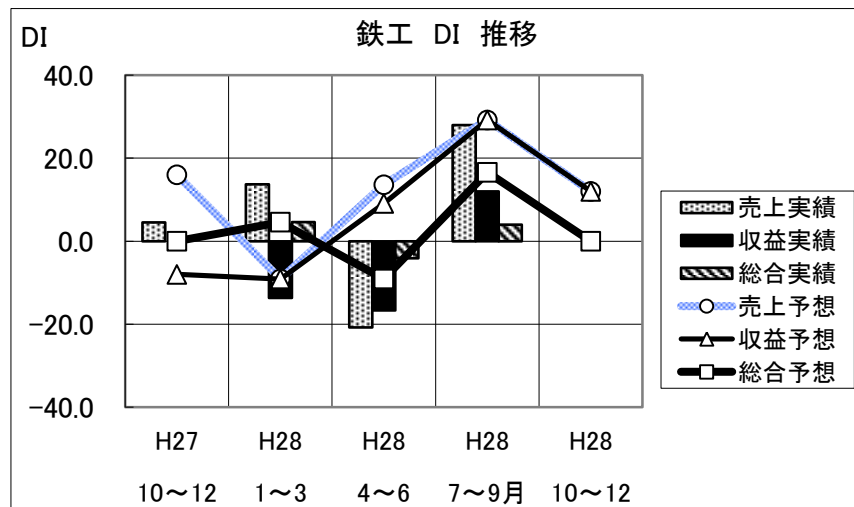
[鉄工]

<工作機械関係> 国内生産の受注動向は、7月1,043億円、8月980億円、9月は1,028億円と、低迷が続いていた東アジア向け受注にやや回復の兆しが見られ、全体では前年同月比で微減から横バイの動き。向こう3カ月の見通し 一進一退の状況であるが、内需・外需ともに回復の兆しが見られ始めている。

<自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、7月～9月期は1万3千台で推移。国内では新型ハイブリッド車の好調が続く。向こう3カ月の見通し 10～12月期までは、日当たり12,000台水準とやや弱含みの見通しとなっている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	8.0	28.0	12.0
②製品・商品在庫	4.0	12.0	0.0
③資金繰り	4.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-12.0	12.0	12.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	-8.0	8.0
⑥貴社の業況(総合判断)	8.0	4.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	4.5	13.7	-20.8	28.0	12.0
収益	0.0	-13.7	-16.7	12.0	12.0
総合	0.0	4.6	-4.1	4.0	0.0

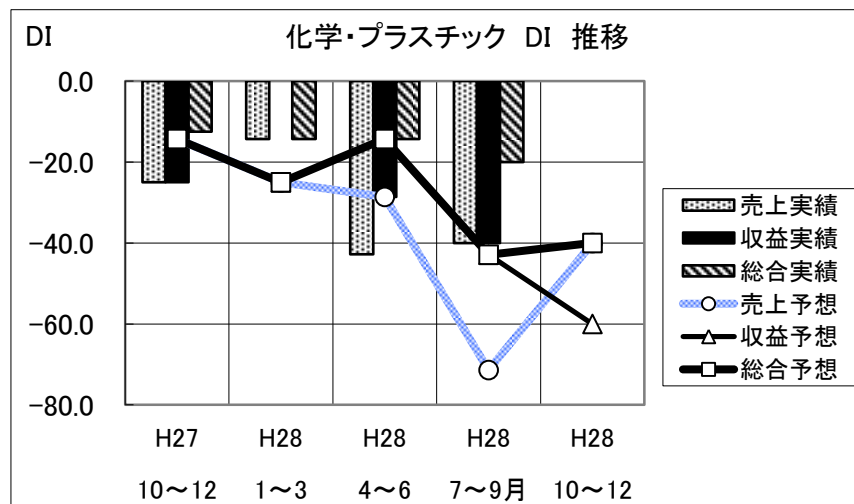
[化学・プラスチック]

<化学工業> 中国経済の伸び悩みと円高で出荷の伸びが止まり苦戦。向こう3カ月の見通し 原油安による原材料コスト低減を期待する。

<プラスチック> 自動車向け中心に出荷数量は伸長したが、販売単価の下落により売上は横バイの状況。原材料価格は安定推移で収益性は変わらず。向こう3カ月の見通し 引き続き出荷数量は増加を見込むが、販売単価が下落傾向であり売上は横バイか。原材料価格に影響する原油価格、為替動向を注視。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-40.0	-40.0
②製品・商品在庫	20.0	0.0	20.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-60.0	-40.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	-25.0	-14.3	-42.8	-40.0	-40.0
収益	-25.0	0.0	-28.6	-40.0	-60.0
総合	-12.5	-14.3	-14.3	-20.0	-40.0

## 建設業

売上DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△11.1)に比して3.2ポイントの下降、収益DI値は△42.9、前期実績4～6月期(0.0)に比して42.9ポイントの下降、総合判断DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△11.1)に比して3.2ポイントの下降。売上・収益・総合ともに下降となり、特に前期比での収益悪化を訴える声が多かった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに下降する厳しい見通しである。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-28.6	-14.3	-28.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-14.3	-14.3	28.6
④採算(収益)	0.0	-42.9	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-28.6

## 卸売業

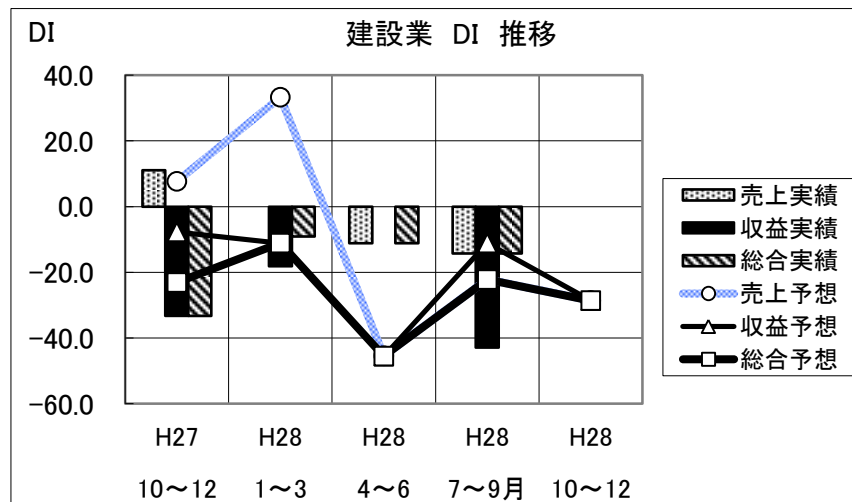
売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(35.7)に比して35.7ポイントの下降。収益DI値は0.0、前期実績4～6月期(35.7)に比して35.7ポイントの下降、総合判断DI値は△14.3、前期実績4～6月期(0.0)に比して14.3ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに下降となった。

向こう3カ月の見通し 収益面では回復傾向もあるが、売上・総合では下降傾向が続く見込みである。

## 卸売業

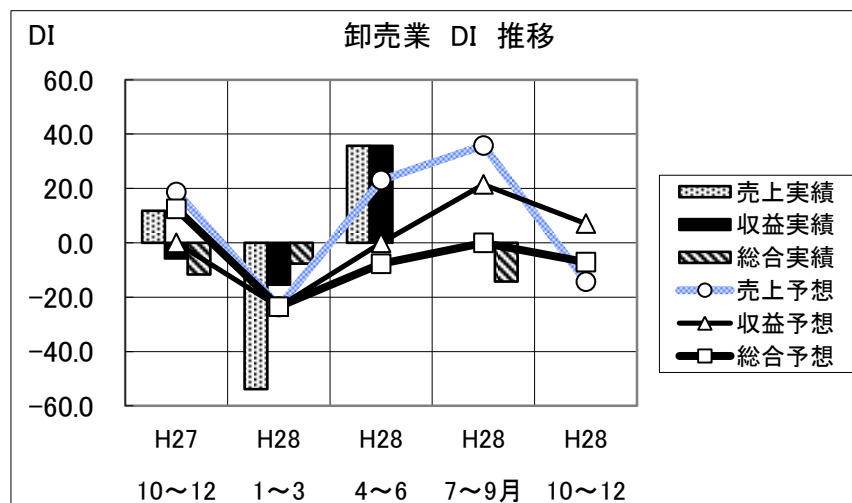
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-21.5	0.0	-14.3
②製品・商品在庫	-42.9	-28.6	-35.7
③資金繰り	-7.2	7.2	14.3
④採算(収益)	-7.1	0.0	7.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-21.4	-21.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.5	-14.3	-7.1



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	11.1	0.0	-11.1	-14.3	-28.6
収益	-33.3	-18.2	0.0	-42.9	-28.6
総合	-33.3	-9.1	-11.1	-14.3	-28.6



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	11.8	-53.8	35.7	0.0	-14.3
収益	-5.8	-15.4	35.7	0.0	7.1
総合	-11.7	-7.7	0.0	-14.3	-7.1

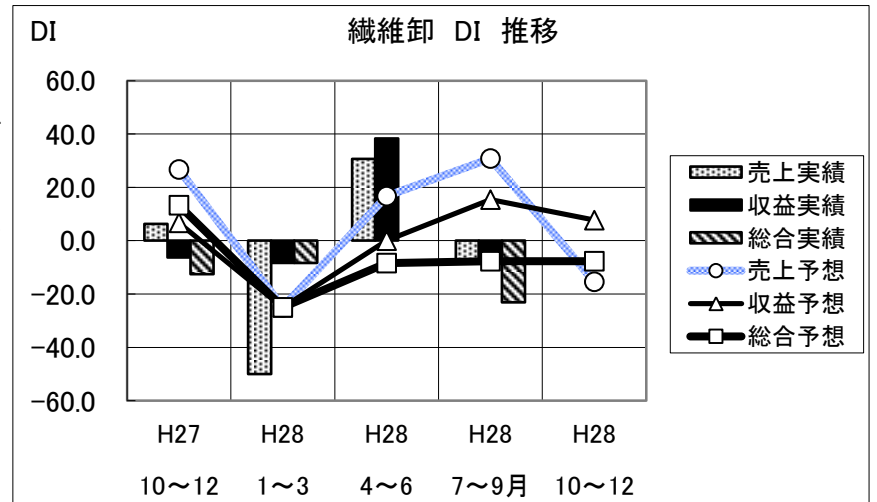
**〔繊維卸〕**

<インテリア>閑散期にあるため例年並みであった。向こう3カ月の見通し 繁忙期を迎えて期待している。<寝装関連>9月も暑さが続き、秋冬物は店頭へ導入済だが商品は動いていない。夏物では冷感商品は昨年並みに良く動いた。向こう3カ月の見通し 秋冬導入は9月20日過ぎか、例年、気候に大きく左右されるので見通しは不明である。<アパレル>生地では天候不順により売行き悪い、ファストファッションの低価格ゾーンも苦戦。麻使いのストレッチ、細番手のボイルは動きあり。商品では夏物はホームウェアよりアウター関連の商品の方が動きが良い。綿素材のカットソーが主力ながら全体的に盛り上がり欠ける。敬老の日用の商品の一部に活発な動きがあった。向こう3カ月の見通し 生地では綿麻、綿ウール、レーヨン混など複合素材の引合いが多く。特に起毛の引合いが目立つ。商品では、気温が下がればある程度の動きが期待できる。国内素材のリードタイムが長くなっている。(繊維部会)

**(繊維卸)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-23.1	-7.7	-15.4
②製品・商品在庫	-46.2	-30.8	-38.5
③資金繰り	-7.7	7.7	15.4
④採算(収益)	-15.4	-7.7	7.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-38.5	-23.1	-23.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.8	-23.1	-7.7



**<業況判断DIの推移>**

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	6.3	-50.0	30.7	-7.7	-15.4
収益	-6.3	-8.3	38.4	-7.7	7.7
総合	-12.5	-8.4	0.0	-23.1	-7.7

**小売業**

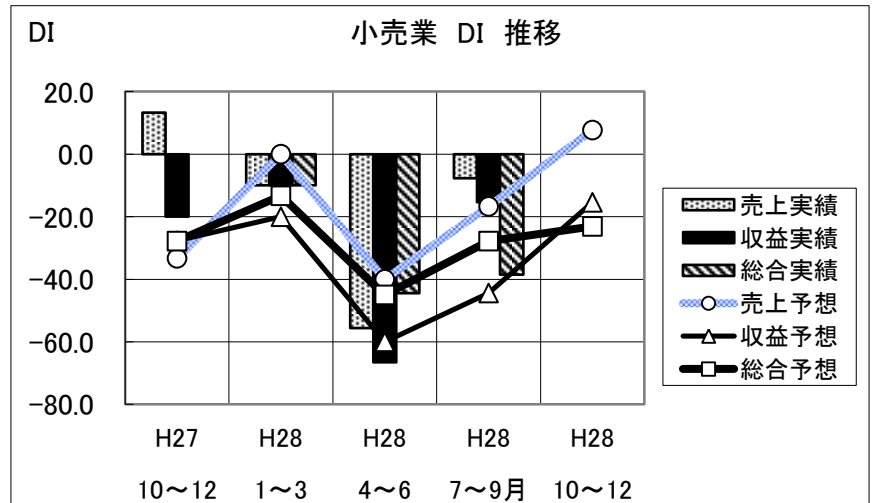
売上DI値は△7.7、前期実績4~6月期(△55.6)に比して47.9ポイントの上昇。収益DI値は△15.4前期実績4~6月期(△66.6)に比して51.2ポイントの上昇、総合判断DI値は△38.5、前期実績4~6月期(△44.4)に比して5.9ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともにDI値は改善されているものの未だ水面下にあり、消費意欲の低迷が現れた。

向こう3カ月の見通し 消費意欲の高まる年末の需要期に向けて期待されるも採算面・総合面では厳しい見通しとなっている。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-30.8	-7.7	7.7
②製品・商品在庫	-15.4	-15.4	-15.4
③資金繰り	-15.4	-23.1	-15.4
④採算(収益)	-46.2	-15.4	-15.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-7.7	0.0	7.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-46.2	-38.5	-23.1



**<業況判断DIの推移>**

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	13.3	-10.0	-55.6	-7.7	7.7
収益	-20.0	-10.0	-66.6	-15.4	-15.4
総合	0.0	-10.0	-44.4	-38.5	-23.1



## [飲食]

状況にあまり変化はなく、横バイ状態が続く。ランチは動きあるも、夜の一般客は少な目。団体客も小グループ化している。

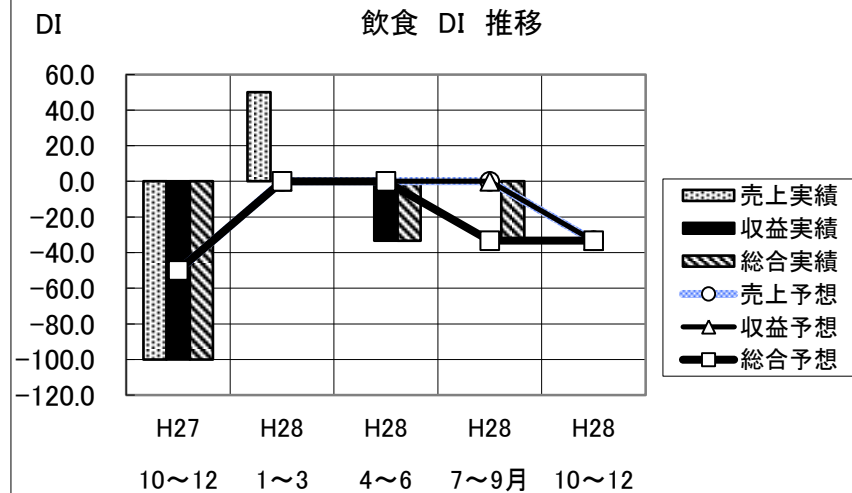
向こう3カ月の見通し 忘新年会シーズンに入り、本格的な予約は、これからだと思っているが、例年並み以上は期待している。おらがの店自慢などのガイドブックを持って立ち寄って頂けるお客様もいるので、大変良い取組の1つであると思う。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	0.0	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.3	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-33.3

## 飲食 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-100.0	50.0	0.0	0.0	-33.3
収益	-100.0	0.0	-33.3	0.0	-33.3
総合	-100.0	0.0	-33.3	-33.3	-33.3

## [石油等その他小売]

原油需給バランスでは、供給超過を背景とした原油安を基調とし、WTI期近物では40~50ドル台を推移した。北米シェールオイルは減算傾向にあるものの、OPECの増産体制に大きな変化はなく、インド・中国をはじめとする途上国の底堅い需要に支えられつつも、わずかな供給過剰状態が続いた。

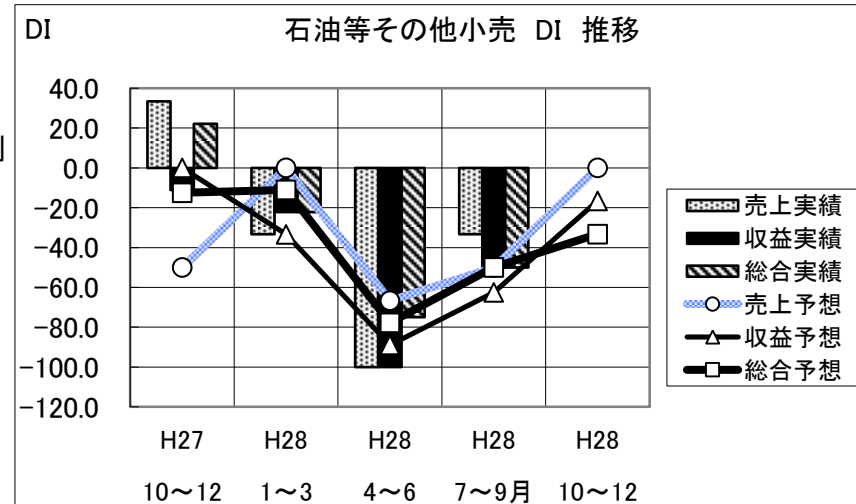
向こう3カ月の見通し 世界経済の緩やかな回復を背景として需給バランスは改善に向かう見通しであるが、原油価格動向にさほど大きな変化はないものと見込まれる。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-33.3	0.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	-16.7	-33.3	-16.7
④採算(収益)	-50.0	-50.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-33.3

## 石油等その他小売 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	33.3	-33.4	-100.0	-33.3	0.0
収益	-11.1	-22.3	-100.0	-50.0	-16.6
総合	22.2	-22.2	-75.0	-50.0	-33.3

サービス業

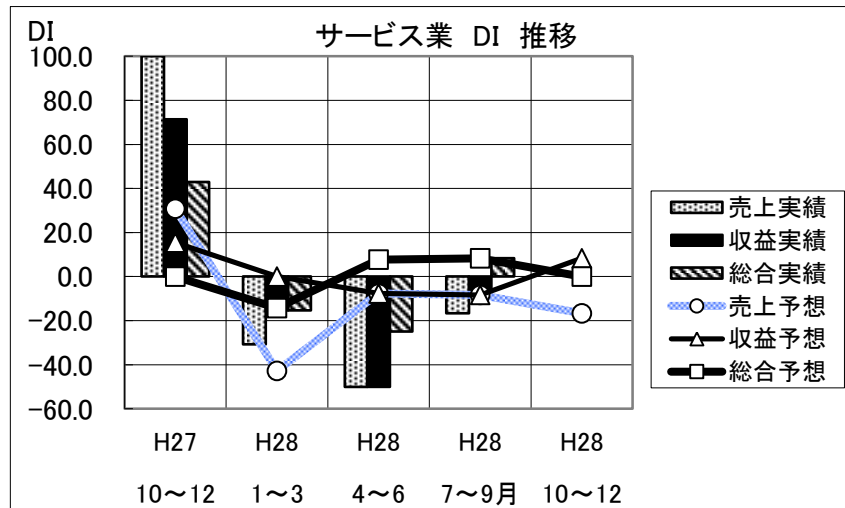
売上DI値は△16.6、前期実績4～6月期(△50.0)に比して33.4ポイントの上昇、収益DI値は△8.3、前期実績4～6月期(△50.0)に比して41.7ポイントの上昇、総合判断DI値は8.4、前期実績4～6月期(△25.0)に比して33.4ポイントの上昇と、売上・収益は水面下ながら、いずれの数値も上昇が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上は下降も、収益は上昇、総合は横バイとなっている。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	8.4	-16.6	-16.7
②製品・商品在庫	0.0	-8.3	-8.3
③資金繰り	16.7	0.0	0.0
④採算(収益)	8.3	-8.3	8.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	8.4	-8.4	-8.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	8.4	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	100.0	-30.8	-50.0	-16.6	-16.7
収益	71.4	-15.4	-50.0	-8.3	8.3
総合	42.9	-15.4	-25.0	8.4	0.0

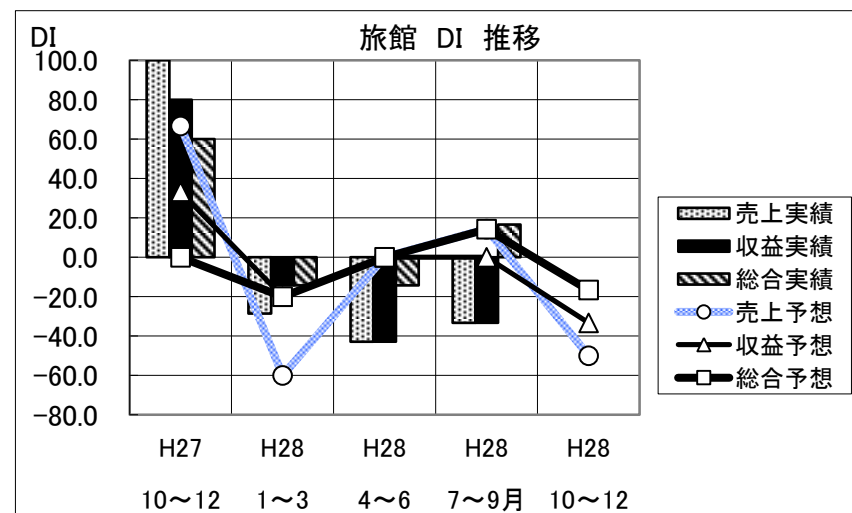
【旅館】

宿泊者数は対前年比で7月99%、8月92%、通期で100%。インパウンド微増・国内減少。昨年のようなシルバーウィークの長期連休が無かった事、オリンピック年であったため夏場の宿泊者数減少が原因の1つと考えている。しかしながら、好天候も関わらず伸び悩んだ原因は分析・対策が必要。アカザエビやガマガリうどん等にみられるような「地産地消」がキーワードの一つか。向こう3カ月の見通し 昨年好評だった愛知県のプレミアム付き宿泊券が、今年は無いことから苦戦を予想。秋冬にかけて開催される多くのイベントや、近隣地域の観光資源を活用したい。忘年会シーズンであるが、日帰り化・少人数化傾向に対する対策を考えていきたい。インパウンドは団体から個人型への動きが見られる。多くは都市型観光で都市部宿泊だが多く、溢れた部分を獲得できるよう努力すると共に、要望の多いWiFi整備等も進めていきたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-33.3	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	-16.7
③資金繰り	16.7	0.0	-16.6
④採算(収益)	-16.6	-33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	16.6	-16.6



<業況判断DIの推移>

	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	100.0	-28.6	-42.8	-33.3	-50.0
収益	80.0	-14.3	-42.8	-33.3	-33.3
総合	60.0	-14.3	-14.3	16.6	-16.6

## 運輸通信業

売上DI値は△12.5、前期実績4～6月期(11.1)に比して23.6ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績4～6月期(11.1)に比して11.1ポイントの下降、総合判断DI値は△12.5、前期実績4～6月期(22.2)に対して34.7ポイントの下降と、収益は水準を維持しながら、売上・総合は下降となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに横バイの見通しである。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-12.5	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	12.5	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-12.5	0.0

### [旅客・貨物輸送・水運]

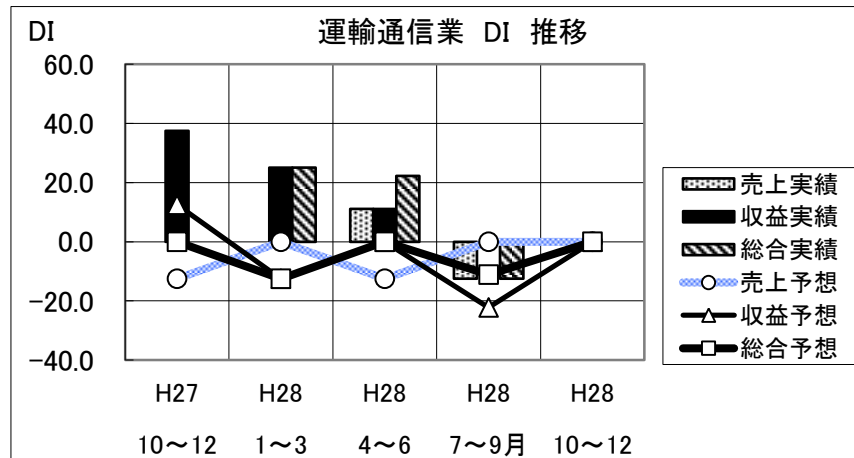
<旅客> ここ数年横一線。旅行業(バス観光)は、7～9月は季節的に動きが悪いため、特需が無い限り平年並。個人旅行は航空機絡みの旅行が増加傾向 向こう3カ月の見通し 秋は旅行業のトップシーズン。おおむね例年並みの傾向。ただ、仕事があってもバス乗務員が不足し、稼働できない問題が発生している。業界の一番の問題は乗務員不足。

<貨物輸送> 完成車輸出は月間平均10,000台と好調。鋼材移入・海上コンテナ貨物の輸出も堅調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は引き続き堅調に推移する見込み。木材(米材)が徐々に輸入される予定。(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

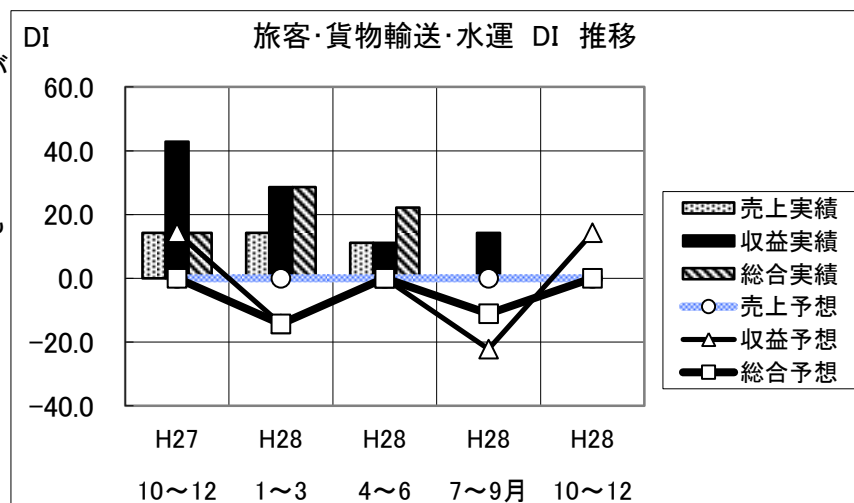
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年7月～9月 に比べて	前期比 平成28年4月～7月 に比べて	来期見通し 平成28年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	14.3	0.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	28.6	14.3	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	0.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	0.0	0.0	11.1	-12.5	0.0
収益	37.5	25.0	11.1	0.0	0.0
総合	0.0	25.0	22.2	-12.5	0.0

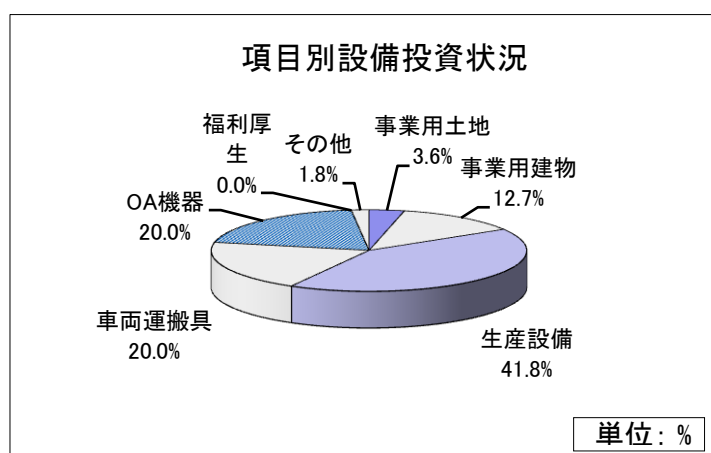
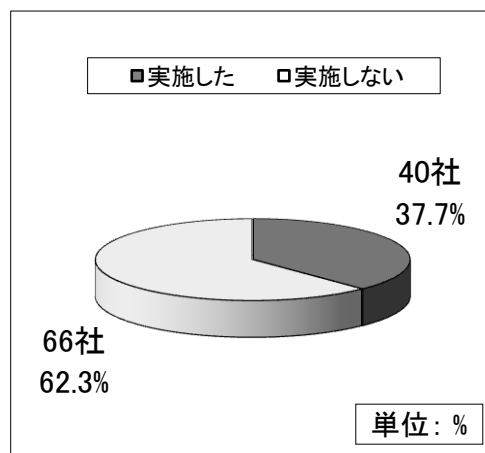


### <業況判断DIの推移>

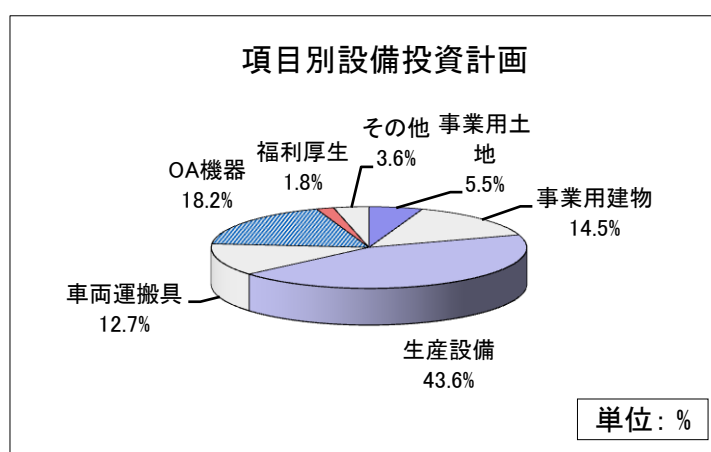
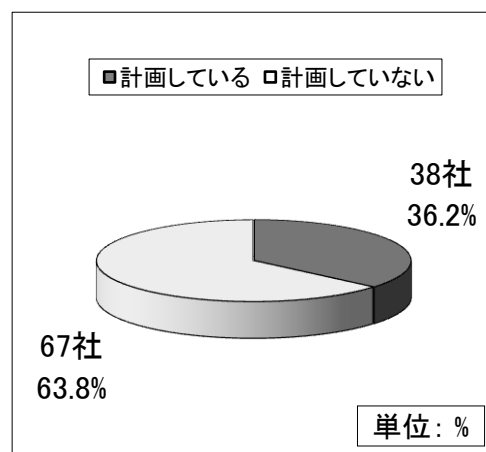
	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	14.3	14.3	11.1	0.0	0.0
収益	42.9	28.6	11.1	14.3	14.3
総合	14.3	28.6	22.2	0.0	0.0

## 7. 設備投資動向

＜今期(H28. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H28. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	3
事業用建物	7	8
生産設備	23	24
車両運搬具	11	7
OA機器	11	10
福利厚生	0	1
その他	1	2
計	55	55

(単位:件)

◎今期(H28.7～9月)、来期(H28.10～12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H28. 7～9月)	40	24	1	2	3	8	2
2. 来期 (H28. 10～12月)	38	23	1	4	2	5	3

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 106 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	63 59.4%
2	利幅の縮小	58 54.7%
3	人手不足	36 34.0%
4	競争激化	33 31.1%
5	合理化の不足	19 17.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 52 社	売上の停滞・減少 32 社 61.5%	利幅の縮小 30 社 57.7%	人手不足 16 社 30.8%
建設業 7 社	利幅の縮小 7 社 100.0%	売上の停滞・減少 3 社 42.9%	人件費の増加 3 社 42.9%
卸売業 14 社	売上の停滞・減少 9 社 64.3%	利幅の縮小 9 社 64.3%	競争激化 7 社 50.0%
小売業 13 社	売上の停滞・減少 8 社 61.5%	利幅の縮小 7 社 53.8%	競争激化 6 社 46.2%
サービス業 12 社	売上の停滞・減少 7 社 58.3%	人手不足 7 社 58.3%	競争激化 3 社 25.0%
運輸通信業 8 社	売上の停滞・減少 4 社 50.0%	競争激化 4 社 50.0%	利幅の縮小 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.72

番号	調査項目	単位	H28. 10報告	基準日	H28. 8報告	基準日	H28. 5報告	基準日	H28. 2報告	基準日	出典
1	人口	人	80,958	H28.10.1	81,042	H28.6.1	81,177	H28.3.1	81,332	H27.12.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,430		2,392		2,328		2,304		
2	世帯数	世帯	31,520	H28.10.1	31,524	H28.6.1	31,402	H28.3.1	31,376	H27.12.1	"
	(うち外国人)		1,128		1,106		1,073		1,069		
3	15才～65才生産人口	人	48,964	H28.10.1	49,120	H28.6.1	49,291	H28.3.1	49,577	H27.12.1	"
	(うち外国人)		2,015		1,983		1,922		1,903		
4	建築確認届出件数	件	100	H28.6月～8月	98	H28.3月～5月	87	H27.12月～H28.211月	108	H27.9月～11月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	3.1	H28.7～9月	3.2	H28.3月	3.2	H28.3月	3.3	H27.12月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.3	H28.4月～6月	2.7	H28.1月～3月	2.6	H27.10月～12月	2.6	H27.7月～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.38	H28.9月	1.36	H28.5月	1.30	H28.3月	1.27	H27.12月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.96	H28.9月	0.84	H28.5月	0.94	H28.2月	0.88	H27.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% (実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	120.9	1.3	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	120.8	▲ 2.0	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	118.1	▲ 0.7	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	126.9	0.5	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	123.5	1.2	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	123.4	▲ 0.5	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	122.4	0.5	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	129.7	▲ 0.4	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	124.9	0.5	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	125.3	0.2	▲ 1.1	22.3
6月		3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月		3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月		3.1	1.37	0.2	82,242			▲ 4.6	22.3
9月			1.38	▲ 4.5	85,622				31.7
10月									24.2
11月									
12月									

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。